

「いちばん偉い者」

2023年11月17日

そこで、イエスは言われた。「異邦人の王たちはその民を支配し、民の上に権力を振るう者が恩人と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。食事の席に着く人と仕える者とは、どちらが偉いか。食卓に着く人ではないか。しかし、私はあなたがたの中で、仕える者のようになっている。」（ルカ22：25～27）

主イエスは十字架の死が近づいていることを知って、弟子たちにパンを裂き与え、ぶどう酒を飲ませ、新しい契約が実現する赦しの福音を体で想起、記念するように示された。教会は、これを「聖餐式」として継承した。また、私を裏切る者が一緒に食卓に着いているが、定められた通り去って行くと、ユダの裏切りを予告され、死に逝くと語られた。弟子たちは、誰が裏切るのかと互いに議論をしたが、愛し、従って来た自分たちの中には裏切る者などいないかのように、主イエスの言葉を見做した。主イエスに聞かず、思いを全く理解していなかったのである。逾越の食事が終わった後、弟子たちは自分たちの中で、誰が一番偉いだろうかという言い争いが起こった。主イエスは殺される決意をしておられたが、弟子たちは、主イエスは革命を起こし、王になられる、その時、誰が偉い地位に着けるかに関心を寄せていたのである。現実を直視せず、あらぬ期待に胸を膨らます弟子たちに、主イエスはどれほど深い孤独を感じられたであろうか。主イエスは、「異邦人の王たちはその民を支配し、民の上に権力を振るう者が恩人と呼ばれている。しかし、あなたがたはそれではいけない。あなたがたの中でいちばん偉い人は、いちばん若い者のようになり、上に立つ人は、仕える者のようになりなさい。食事の席に着く人と仕える者とは、どちらが偉いか。食卓に着く人ではないか。しかし、私はあなたがたの中で、仕える者のようになっている」と言われた。神を知らない異邦人の王たちは民衆の上に君臨し、我が物顔に権力を振っている。それでいて、民衆からは自分たちを守ってくれる恩人と呼ばれている。しかし、あなたがたの間では、そうであってはならない。あなたがたの間では、一番偉い人は若者のように、懸命に働く、上に立ちたい者は人に奉仕する者になりなさいと語られた。そして、食卓に着く者と仕える者は、どちらが偉いかと問い、食卓に着く者ではないかと言われ、私はあなたがたの中で、仕える者のようにしているとされた。逾越の食事において、主イエスは給仕する者のように弟子たちに仕えたのである。

人は皆、他人より一歩でも上に立ちたいとあくせくするが、主イエスは、真に偉い者は自分を低くし、仕える者であると、「偉い」という価値観を逆転させた。この逆転に応えられる者はいない。パウロは、「しかし、私たちがまだ罪人であったとき、キリストが私たちのために死んでくださったことにより、神は私たちに対する愛を示されました。それで今や、私たちはキリストの血によって義とされたのですから、キリストによって神の怒りから救われるのは、なおさらのことです。（ローマ5：8～9）」と書いている。主イエスの十字架を私のためであったと信じる時、仕える者に変えられていくだろう。

主イエスは、様々な試練に遭った時も踏みとどまって、耐えてくれたと弟子たちの労苦をねぎらい、それゆえに、終末においては支配権を与え、神の国で主の食卓に与らせてくださると約束された。弟子たちの無理解にもかかわらず、最後まで、弟子たちを愛し通されたと記している。